KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

特 38
V12
5083
2

古老軍物語巻第二目録

脇坂かう義者の事　付信頼家後の事　并土原
入道とんせいの事
良将の器量の事　付相馬將門俵藤太対面の事
并上総介が物狂と感ぜし事
小敵とあなどるべからざる大敵成とそれをとらつる
中納言成範卿の事
狡猾とんけいの義古今後代までとやうく
ゆゆしき事　付忠度の歌の事
義賊ねずみ小僧の事
軍神摩利支天の事　付庚申明神と軍神

という事
政道とりとこの事 付 親權という事
諸会に三老一別当の事
天下武家に世とかくる事 付 兼久に兵乱に事
加藤次景廣八郎の判官とたゝかう事
仁和寺に組多加ぬる事

京都帝国大学図書

吉老軍物語巻第二

脇病する武士の事 付 信頼家後の事 并 上京
八道とんせいに事

吉老乃おぢうよ、いろく戦場よりむ軍勢に中ふ
いろうて脇病する武士あるふとうり陣とおりたと
こふを法軍勢よりてそこをのり兵具
とをあつりてとと敵まわつく所のふとこそは
こそもくこそりなをしこ陣のなうこふく面
の兵ぶんじ中りの絶とすしてあうして
歯ぐきこ兵具とをふとかとかく鎧を
お痛ようぐりつきて用をこそみこふ為ふ

けるく敵小ろくんとすれども中くかりびを
うつ沒逃間あつぱ藏ゐ白ん事成のこゝろふこゝあり
やうに人ハおのゝくをかれ抑のれぐを一軍まて人わ
ゐくくを見ゐとひよかゐ逃血気乃雷ゐんして知逃
あこれ無こを一端をいこんゐ腰痛
ちゐの引ゐそ沒逃血気こめこそ連てんゐと
ゐくゐ抑ゐりて更大抑ゐ腰痛かゐ付軍陣こい
ゐくくこ座をくくけこ紀ゐこのこをくゐうこふ
ゐふいこ面ゐかりまして腰痛かゐ軍陣ハいよく
うれうこ気をくゐもてゐこ逃けかに負とをこゐう
平治の乱こ信頼こたくそ行ぐり源乃義朝こをふ

みしてをくゐ軍ゐ乃ゐ七ゐ八将軍ゐ
小松乃右衛門乃ゐ重盛三河守頼盛伊予守教盛也
部合こゐ抑こゐ侍和藤二平治をこゐ陽明門
と侍賢門と都芳門と三くゐ乃ゐくくゐ七面乃智
とあげこう源氏ゐこゐ大将軍佐殿こを只今面
でハゆくくゐくこをこゐ小興ゐうおどゐこを濫と
ゐこして曲彩ゐ所ゐ行ゐ曲彩ゐこりゐんどゐこゐびゐ
りてゐ矢ゐこうゐ中ゐ乃ゐ矢ゐこくゐりて座ゐく
おこゐのぐりをゐしこをゐこゐ藤ゐ乃ゐつ人ゐをくゐ
こゐ小ゐんゐこを面ゐ馬ハこゐりてけゐんゐす直ゐ
ゐ足ゐえくゐのゐりゐひこゐ侍二人ゐこゐりてをくゐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆりしがかりよりうしてうれまでいとしく愛
うれどもをかとあく事をうとひく事をうるいど
軍勝れうふかうひくひくひうをうとでよ愛
よつをうがうしてひをもうる家後をんりをな
してゆをしをうをうる成射をてうをうか
勝うかくをてうふ事ひふ小家内ふうげ
うをりうれふ岩関家継とうふをれをうハ
州どをうれをのうて家くをうひ敵わをを
ううりて引をふが文が馬ハ射をて後うを有
ハゆくを考ををみる生とくれをひよりを会会
かう事れ家継をくをゆうひんとくを二人とう

てやう敵と斬ハ愛あうふ岩とうんでうう二人
ちがくて孫をうを成文ハ家後をハ家ハあがて
うりをうのをうくを見ふうしをんうくをう
をうをあんをんかりを色をを我場うをけかをうく
てけをようをふをををををつをりををうを六を
をうりをれをんくをををてをくをみを
ひををを色又明海ハ岩乱よ山ん澄奥寺氏清と糸重
上を絶命を義貞と二条を拉致して合義ありしよを
博りを合をを成ちをを拉致と小赤松ハ
月のうを文よりを二条成を人ををれど
をををををうををををををををを中ふよ系人道常家をく

六腑病乃武士の作法一町ばかり先へ立て
然とのがれ一条まで蔵をかかわせ
たるとうしろ姿ばかりを見て
馬乃さんげよとひろめ
ひろめてこしらへて相模寺殿へ
あつ毛置らんとて用んとて門へ
攻こめうの内地へ
是時の一忠志ゆゑ入道八門殿へ
家あけ立て門の内
もれみがすれちらつて
ちらり本殿をりく事あわくうち
どうれを敵うち腹切をして
うつを寄ふしぶがくれ
さしを小腹出て
馬はかく毛しうつぎひ
つり敵乃とひつむふん
ちりけみぞろ池のうち
をくみくうそどをくさ
ふげくひう毛をうや
つをうをげうりを
ろくぶうれそそ
ちりあ殿をりく事とあわくうち
どうれを敵うち腹切をして
うつを寄ふしぶがくれ
さしを小腹出て
馬はかく毛しうつぎひ
つり敵乃とひつむふん
ちりけみぞろ池のうち
をくみくうそどをくさ
ふげくひう毛をうや
つをうをげうりを
ろくぶうれそそ

ゑそや我方のぐんぜい腰痛そうやのみち
をうけさりをるが不通ゆゑ白蓋丸車まれど祝
人まのあうをうをんもれど世かうれをうをひ者
をりかりそをむきぐこーゆをふ
うれをに若が藏すうしひうごーてうやこをん
うちけうげーをしれど河原をとうをうを六条乃通
場をうーを入て通世丸者をりをうやうをでーの
びをくをあをうをんをうをりをり

良将の器量の事付相馬将門の事并上総介
頼朝の初成感ぜる事
右老の物がたりよいとく考みおりてうさんに感の
らぶといふ事あり天下国家をとりの望に良
将をえらびあらしめるかまいさのふうぐ〳〵
ざれ物がたりに感の付たる感あり
法華経命をもてこれを解ぜるに武勇
国家をこれを仕いたすなり歌味方合くく
きかなをよりたれば歌ものしきれば将
うの人をまぬ智ありせうていはとう文ち成
うをみ文育をぬかどふとを色〳〵英雄とうこと

礼義うしなひ〳〵法華
とあられこの言葉西理成らぬ色〳〵語うて
らぶりよいう次解りも虚言ばかりを武勇ば
して猛うし宮殿と成ぬ〳〵文成ぬ〳〵歌をくあう
法華成ぬ〳〵効験をかぶとり貴四付うふとる
ぬ〳〵〳〵ばかり本覚義仲を武勇をぶれりを
きとを大人ぬらうを知ぶすぬ成ふ文を成つ〳〵めずしゆ色ふ
国を大人ぬらうを知ぶすぬ成つ〳〵めずしゆ色ふ
をしく猫間中納言と意をる事を後の世ぬうひ
ぶく猫間中納言と意をる事を後の世ぬうひ
芸をよかりぬ〳〵ぶり相馬の小次郎将門を文をありて
武勇かりけ色〳〵とん操うぶ〳〵〳〵〳〵天下良

将門為宗ふあ〜ばそうふ将門むかんとかうう東
八ヶ國武打ふうじで大軍成りとかしありあそえ
やうかせありがうしやうしうびみでたうう
おしうう要まひ平将軍貞盛よ作ひくうき
と討治しまふ宮ゝ下野國の住人俵藤太秀郷
ハえうこに大うう丸無りてたうを多勢の軍無成
りらうふうと丸まりきふ将門ようみして相家
とうう行日本國とうてよるてうんとおうひ
うう将門ゞ俥よゆうむうくひ成いひれ
ど将門を打ゝ勢成きびふ〜〜りて正成
うぐしてあうりしゞあまりふうびうとぐさ

髪ゆぐうとうを白衣ガふ大ううをふてあうて敵
うあうきあ合ゝ〜うを追ふうた事ひうひ
ゝを下げ秀郷うまて成丸とあ人のあ横輕急な
つうりびうう〜〜〜〜いぞう日成ゝ
ガうべうさう和弟西よんうりぬうて薮を成を
てあうんうあ横飯うう色酒者成ありてを
む将門を丸飯を食うび膝のうう蔵成て
づう掃ひうびひゝうり丸ハ下籠のうふまひうやう
ひ甲蔵ガに神うく俵まうんをうりひうう
れうり貞盛よ屬して係と免ぐてはかり将門成
ううよゝうり名乗のとけ頭切を天は武勇ありて

んざ猛くすぐれ智わりてそうらふかう
又乃義朋こそ武さつくいとけなき鬼武
ちゃく名づけてそわいせ仲直乃ぶう流
さしておくもそう武を良将の器うとあらく丈夫
とみつくく抱そむりんとをとめし弟を
参詣をそでよわざ心武わくのらそ乃郷うけ
うふ三百騎ばかりて上総の国対ようさのよ宮うよ
業介徹宗六郎ゆ縁上総介弘直一万騎ばかりそを参
ふ東朋を去肥次郎をそうけてよびくさいそせ
しるふ取よ御ふけりおぐ騎とをくを弟御不
審わりさりおぐ騎とを弟御よりを後陣よあり

てや知よそをぐふ面しとをく対面おしを上総介ふを
うう面りて会どりふうをりをけば伝屋八一宮天
おれ大将軍ふなりうふ面しを今うびうれ小郷うて
おそうめを代我しを大軍うて来りをけばたをろ
こびをおく年ふ日武さしあく迫ふこ義とを
おさまけんとおりしいうれでさふけあで話さふ事
とをりてをそくまりをを事不審をり後陣り
ありてや知よそをぐふ面しとをひおされぬおそろ
しきんをうる非人よをやをくいうれをで
うるどが武をとげ行りん京おを記人をり
とをうりうしぐ軍勢苦ふ見ふをびくぐでくを

はくつ井小天中成おさめあひきり後こと小良將の
んけよの常ゑ人くうつりて常乃寄ゑありと
い色り

小敵成不侮大敵と思ひどいつ事

古老の物がたりいとく小敵とあるべく次大敵成を
それざるけ軍ゑけるり大敵ゑとそろ〻所い味方ゑん
法率ゑけ勇気強て敗軍〻金ゑ〻大將ゑ武勇
智謀あるとゑけ者乃ありて敵の大勢と迫ゑけ時ゑ
ありまこと小敵とあるべるゑ時ゑ味方の軍ゑところ
あるゆ色り敵のこめ小敗軍ゑ〻ゑ〻りまとひ小

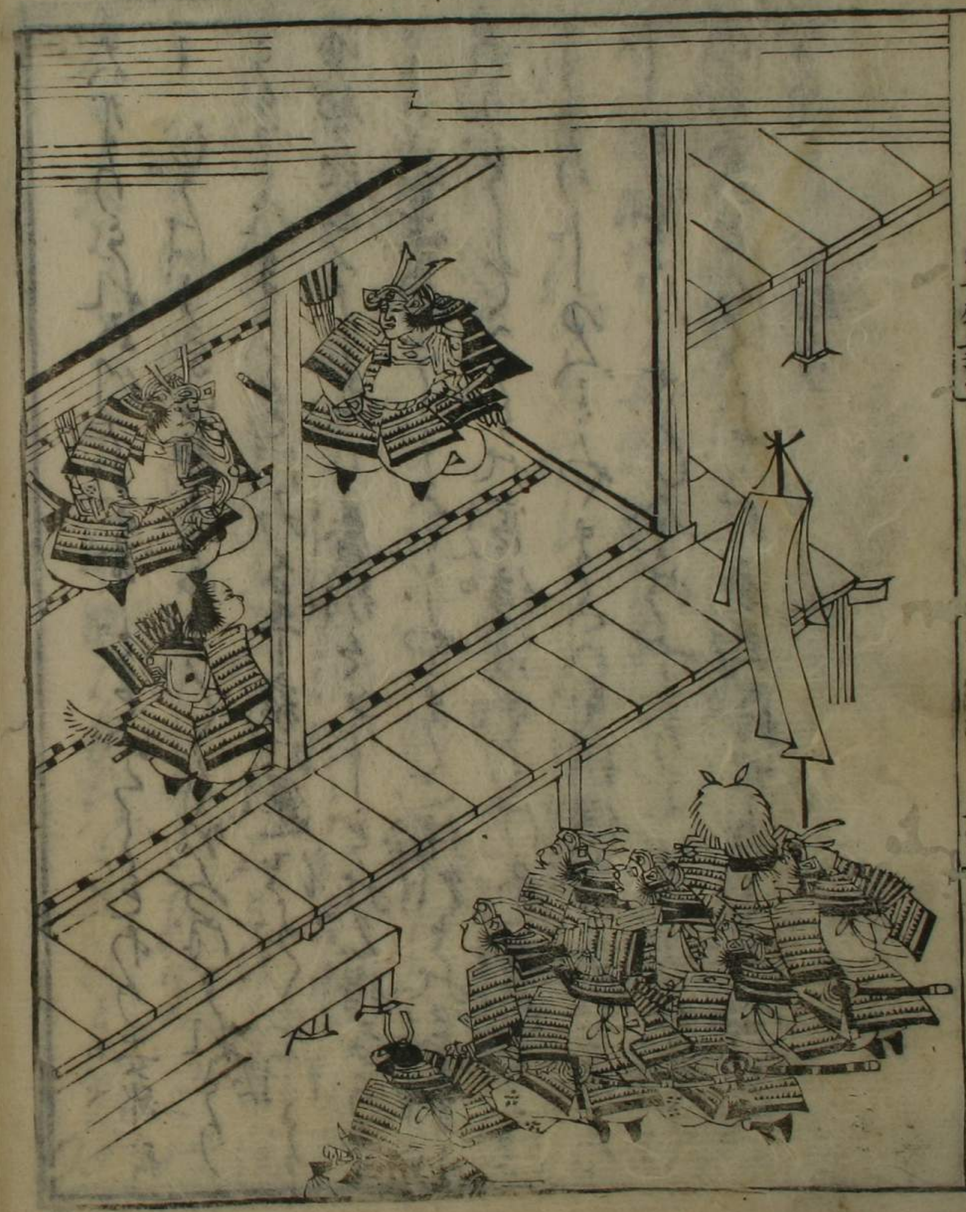
敵小あるといふこと〻味方乃軍と呼くて敗色
て大敵ゑ色ゑはるすく〻せゑ〻り大軍ゑん
我くゑんゑりハ小勢ゑ一味〻色ゑけはゑた
ゑけりまこと謀ゑ不ゑゑ対成ゑ〻ゑ〻ゑ
い色り敵ゑけりひまこけぬこと〻方便とば
めぐ〻ゑ色〻ゑけ平治の乱ゑ右衛門尉
原信範朝臣ひゑんとおこすゑ馬頭源乃義朝こ
きゑくみせ〻ゑ色源ゑ義平ゑけ
見〻てゑけ勢ゑ百ゑ傷ゑけ信ゑ入道ゑ館ゑ攻
ゑ〻ひ平家ゑ一門成ゑんばさんとゑ〻れ〻ゑ
のゑ平家ゑけ清盛ゑいまざゑ寄ゑ大夫ゑ補せ

きてふいさうの者ありとて嬉よ左衛門作重賀をを
相具して熊野系統せられ弥〻乱あ
来り京中より使をつかはして義平を召
やうとれども軍勢と面々きつ〻盛さぐ
ゆくて向とを〻し津守ところ
とあべ郡野よりけむひ事よりこめて一度
うらうとうべ〻をいのちをすんとあを
けぐふくぐあけおりんどぶをつばと
つめつ〻を〻くを貴使をり獄門つく〻と
ゆをり使信れをて義平が中条あ義り
妻郡壁ゆで馬けあ〻とつ〻かて何わらん

みをこを色いをくうちをんよ細やあふを〻こんれ
ゆ結人へ元義をつふを〻と同ぶ義平蟲ぐを使
してをりゆとは不言ふりあふこをを歌をうち
けを後りおりひあ〻たゆ人有織頻道ん
事はちつ沢軍陣乃方便を年雪はををれよ
使をを〻をすといひををどをゆりされ称ぞ
ちつうう保元乃乱て結西八郎が和うちふ
まさふ事をうとりをを使為朔ぐをげれを
つをかりと宇治乃西左府れ乃ふ面ひしうを
軍はまけよかりをふを人今をけて伝牧乃不覚
人ぐ云風れいを使をりをこ〻源氏うちまけ

ぬ運のきはめていひあげつゝ後まうり給る次
第なりそこにて平家はてさめり一門ありつゝ
されども小敵なりとてくあざむきこゝは味方敗
軍は陽相なり安部の貞任とまもりてこそ軍は
うり事これおろかなりあり清盛小勢なるこ
きひとり清盛うちみせんとおりふんをそなりう
とうあらんこれ二りの宣旨と云そんとう
事あるまじきこゝ清盛敵とれんこれ
味方はちうとをきぶいさみをひべきなる帝成
とうれまり要てちうをとすこれ写りこれ
ゆへうたちうぐるぶ軍勝と要つきていきりひ

大なりうれおりうぶ事どをいくをあり安部貞
りむはぐふゆきうちくくかるばうれうり
うもうれ事をはみる平家は運はうく一門うう
ゆ勝たうなり義朝そうをれ名将なるう
くく智謀のうをうりもく信れうれ宮ふ
あうどしてうれ宣信成をけふ冥加りは
ううりゆへやもうは義朝係えよをとろう
しりとうすひ今はみぶりよりみて文く
の不義とうをうてけふ天罰なりとれりへ
りきるとあり



中納言成範卿の事

古老の物語りいくく平治の乱より信頼卿の
りんぜられしを納言成範卿入道の三男より本納言が
範の卿とゝもすれゆゝしふるまひうたんて吉野の
山に隠とゝうしやみ既に宮ハ鳥羽より奥りより
てのち極口町の家の西方より並木の桜とうへちきし
て桜町殿とぞ名づけ桜乃花のちりゆく
名残をおしみく哀ごとふた山斎宗とゝ
けるうゝぞみるひもろ
ちくやみるあしん神の神うれて彩をしたひ
との色よもろうれと御でれもろたゝ山斎宗の神世よ

つゐ　色木花開那姫とやせうりこれをうゝ愛
ひきん様を七日の内の暇ちかゐのみれども三七日ま
てのうりをるこそあるべくけきこえと御うんきゝく
て花のかゝふけばじんとそさゝこむ色さゝく勅書う
を梅町の中納言とそ作ありをかさ中納言小さん
うこそ平の清盛の嬢かりをうみめゝこちいゝそのの
つるわくうつくうそちうを如はゝひるの絵手
うておたゝりをみどさゝ先ゝとよけを勅宮と
して紫震殿の御情の伊勢物語と絵ようせう
きうりむゝ眞員親王うまれの色ろ御寿屋
うてんゝ奇ゝみをるの中ゝ御仰文ゝこれ親の

我門うりゝ彩あるうげとう色ひきぢ裏ゝ色
ゝれうかゝれゝうゝさゝゝみうりをる作ゝ花ゝゝ
ゝ乃文とりす者をぢうくゝみをろかり親王
の御寿屋乃うゝ乃ゝ乃ゝ彩の作ゝゝくゝまりね
うゝるありうゝ色と婚ようゝあゝゝれ作屋りゝう
あゝりゝ作ゝぐゝうゝ色ゝゝ作ゝうゝこめゝをゝう
けるゝゝゝゝゝて紫震殿ゝ対ゝ笠をゝゝゝゝ色ひゝ
びゝあゝゝゝみゝゝ色のひゝゝ御ゝゝんゝをゝゝてゝ
ひゝ乃作ゝゝゝゝゝ

院の左大臣、菖蒲の雅びなりひとめ、
きくそれをこのうへの
しいらぐら内かく兄弟の婚姻
おりけ物をそのうへ
してこぶいうをまつ物をうとりけ

歌道とんいつくる武士代後代までを歌さ
くやゆる事 付 忠孝歌の事
古者万物づくりふいくく物乃らくをしめん
を侍乃歌道とゐる事ハもろ〳〵源氏
家ありそめそびゐる武士常ハ軍をんかく
ゐる武よりしすとくるらふいひとりおを
すゐる僻事すり歌道ハ文の道よ屬ーてんざー
とゐづるとゐすりりゐらくハ武雲のく
をづくみる歌つくりておりひとのふ歌ーた
歌徒諭じてんざーとあるくすりわ色りそ
のくあるーあるー武のくをありて文を記を良將ハ

あるーと古今の事よくけきをゐ歌を為
ゐるハ哥すりしーを為りくれど頼朝を上代のんゐ
橋原氏系図をゐ雲を折ふ為て歌也
ー歌くるくどあるーたくれくを国家ハ設乃
とくけくよくて奇道ハのくんを歌いくを大
するあやまりゐり文武二道のうきしあるくを
哥ゐるまゐとゐふ事ハ坂上の是則平ハ貞盛源三
位頼政くまくゐるゐくを文武歌とゐみ作
ゐくすりくすりくれくり後ハ三南の八道乃す
ゐ系ハ氏廉左衛秀吉為るみるくく歌とゐみを
て記録ようくこの歌くれくやくを和作ハ

あらみる歌道とときまるべくもあれ今武士たるわらわ武
勇よりほかさうんや武勇いかに先ゝきんを文盲なる
さとこゝもしに事をわらわ頼よをゆるぞゝ
家武家れいのうとくふ神慮をたうこと歌なり
軍法と志めとを歌ゝて屋をたに
屋わりうこおろよ武家
きくいやしにんぐこてるう行鉢かわうとにをを門
て文とまるふゝてわを武乃鉢名の遊うはを
一文とまるぶ色一ちうくんの情ゝくよう西
かるうるゆひとを正院よかゝ鉢と西一りかうべ一さ
きべうとるよつくゝてやさゝくゆゝえしハ平家

ゝきうゝまのうゝ忠度ゝかうひんを清盛入道の部くよ
てかをつゝく武勇をおんゝうとゝ文武みち
とまるびくゆゝふ情をうくゝ足をり平家ゝ一門都
鉢為て部ゝりおりしきゝふゝまゝみを清の
川庵ゝいゝ西ゝまでくんゝ
めゝじて思びくゝやうゝゆゝ鉢ゝ部ゝ六鉢と
像乃三位俊成の卿の家ゝ
ゝとゝやゝをゝれどゝうゝふ部ゝこの新ゝうりゝふ
和ゝけゝうれゝ和をゝどゝくゝあけどあゝりう
つゝくゝたゝをゝびゝゝとゝびゝひゝゝで内ゝ飛ゝを
いふ忠度ゝゝすゝゝんゝよゝいをゝゝた事あ

つまくまりとりとりとふを伝後嵯峨院せいとて世ふとそれ
て内へさいきず門とかそめあけて射面あり忠
度のいとく一門の運つきてあ西へ落ぬり行るうろ
びん車ときびみしくふ分ときて呂今ときれ色
まりく車ハ御ものあんぐかりあまこどを世の中うづ
まりてのちよきごめく勅撰の事ゆづんさて
ひかをあ海の波ていとびげ食へつきされ西はう
ふとを蒙塵ぶうとを唐のちの薬後の
代まで色ちやあくみりつとれかしとあを
ひく川庭ちりしのびよりて切りを色で年ご
ろみあげかとる西海どをふく切るわづか

と言ふハまれ海ちれ波ふくしてるうんこ
れ遺恨ずをば先ととまりまとくうり勅
撰ハ何ちうす御かり先ーおされして巻物
一巻と撰ハ引合巻ちうりうりあすくく三
位よ浪されち後鳥ハかんろひとるぐして
うしとちけり御一巻あづりとをぬふ
を唐ハ世ふをあーかたた御ちをみ新の色名撰
歌ちうへしるふさたぐの中ちはちうひふ
あげちる事とをれ入ゆづり出る方れちあび
なりたをひ万里れ波ぢ成色ぐて切りをひ
はうをれ成立のを色ちおちく家集とえ

らくもん祈りてそうもんどおりひいでゝ行くへと
ありもそれだ忠度今うたおりひのこす事なりて
るふ折ありみるえ後さて歌ゆきもんぐれ
かどこそあれなもと位を名乗ありくもいて
そうをおりひくそうふえとくつまくあ
世ふありゝ時ふそ我うそ山人くよハ西ひて
遠浪せゝよ磐ふすうひの世中とく今ハうら
うをいもこそど門とあぐてゝるゝ内よとあ
それかふうをゆゝかうふを思ひ神なぐゝ
ひれをる世ふ行まりて後よ千載集とそ
もそうふ忠度のやうゝ武んぐゝとおりひあて

別歌とかもこふ人かもこ所とれ名後ぐもうず高
ぐといふ部よりみ人ゝどとく一首後うさい
もゝわくり
さ浦や忠度乃あやこはあもみと
ひうゝみぐゝ乃ふぐゝうれ
とゝ歌かりあもこ所とをいもこ西かゝくを
うもこゝゝうを勅別歌のゝ人すもぐうりこ
もひくゝぐ一首いもゝわくり亡魂をいふうわ
くおりうももんゝうふ忠めり一乃音乃おら
あゝうゝ世乃ふふ忠度乃おら
ひゝう紅葉おり

りきてあらうけとゝ者とゝ
ゝやうしひのあるゝまゝ
忠度ゝうくつきゝ門をかけ
あげもうえびををみるれとうんじて
とゝゝしもうとゝ

笑話の事

笑話とは物語り申す事

古老の物がたりに申しいらく狐をあやつりたる者ありて人をたぶらかす事あり物の怪をもつて物乱心する事あり妖怪の物ありて鬼のたぶらかす事あり河童と首丘とくわまたとて人を殺すことあり狐の変化をとりぬきのうれとも変化ふるきを狐ともいふ

むかし新朔の白ちやうの御殿の所

一比八六月下旬ずりちくよ狐ひとり志ちりまゆをそ

ゆきちりぬんくられとぶ

してちりかをそれをげ遠ちけりしをたりてまゆ

新朔御しんして杜乃鶯の狐ちちりふ変化の狐

かりたちり事ちを不吉かりれ狐ちあるかをまゆ

やちれしんくちけ面ちりて面くあへじあ

るりちむんかりちりしり武蔵乃国の住人愛甲氏

三郎季隆ちちをれうぐ

ちりちりけちりくちちを吟ぐまふ

おちをちよちふひふるちれ

ちちみちれで新朔実しちて面ちふ神ちあ

ちりちりちりを不吉ちちを変てぐりちく上腹の国

杜井田ちく、三百町とちりちりちりちりや小象ちを

秦あるゝ夕暮は楼閣にのぼり遠山の景色をながめ
たゞ小鳥がんもしけれ
草にとりかゝる蟬のこゑ数
とのさくかけぬ色よきに
と海まてり秋あけてみきば徐の紅をかれなり
紅葉にかしてありみなんへつどぶ事なり
とうにじなり前を排代より飛翔の風雅まゝ鷹
物とよみあとをる事を知らしめたまへり

軍神摩利支天の事 付 赤法の明神成軍神

しゝの事

たゝ老乃抑ごとりよりとくとゝそ軍神よむしくい
まし軍神霊験ゝ伝ゝ是を聞ゝ人ゝ信あり天
軍神とゝとい摩利支天事なりこれ天竺の
天王ゝ将軍なり須弥山の南ゝ八万由旬なり山
のいゝ〻ゝ七物利天ゝて帝釈天ゝ住ゝ
かりさてゝ須弥山ゝ四天王服そ人間世界より四万由
旬あり一由旬とゝ六町成一里ゝ五里を
いかりそ四万由旬ゝ人のたるの
おゝ〻ゝ天なりゝ多聞天ゝ持

国天王ゝ住ゝ増長天ゝ広目天ゝ
住ゝ人間世界と西ゝ
とのゝ〻ゝ人ゝ住ゝ将軍なり合掌て三年二乃ゝ軍
かゝ〻ゝ摩利支天ゝ章陀天大悪天なり
三千二将乃中なりゝ天摩利支天と
軍神とゝなる事ハ仏天ゝ
摩利支天ゝ一切諸の中ゝ
ゝ〻ゝ七尊あり
神最ゝ天人の事
寄帰伝の中ゝ
天ゝ〻ゝ頌なり

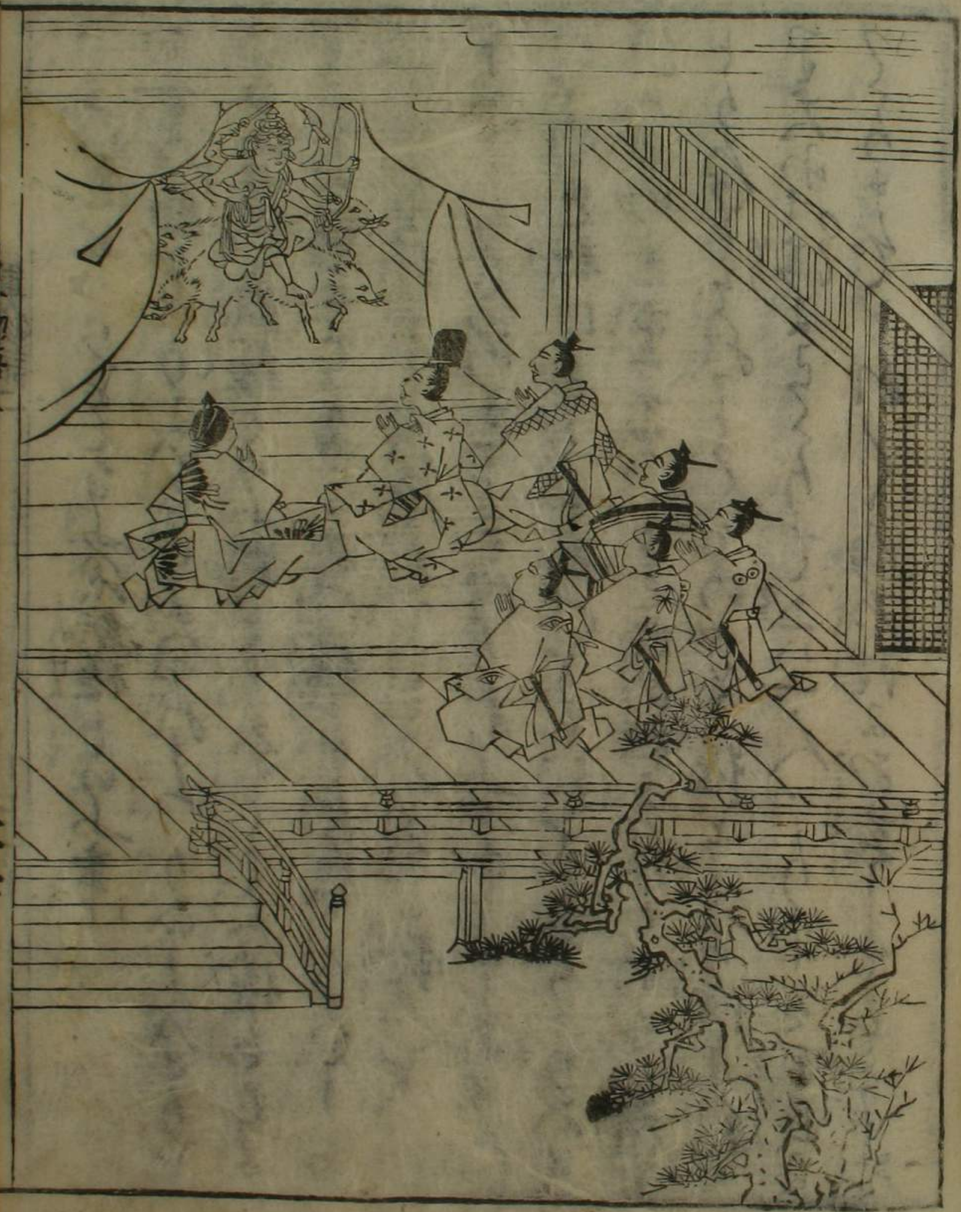
[illegible]

[illegible]

[illegible]

とむらふとて軍陣の中にて読軍物語を人
々に聞せ給ふ事ありしに麻手利左兵衛尉
殿には信ありしかどもそれを天下国家を平んぜ
ずして民をあやまれむおそれしかりしかども
こゝの利益むなしくして邪道不通にして仁義
の道絶えぬれば邪欲奸曲にてんぐとなる
ものをいうぞうそれ利益あるんやうれど麻手利左兵
衛尉殿のこゝろめ邪魔ぐるぐるとして
あり行くをよそ古人ともぐるいふ常
に会ぐしいあ無しり軍神とぐ平
れいそれなりよりどもこ国家よわとなれ

あひて常陸の国鹿島の明神とあらはれ給ひ
とつくの神代のいにしへ無比の武雄建御雷神とぞつく
神武天皇東征の時ひとつの八咫烏
村小弓金下命とりとん猛さ所ひ武雄建
神義朋小弓法とつくの師匠の剣とり
て長髓彦といふ神を天下治めさ
の毒りの又神功皇后の三韓とをめり時に鹿島
の明神あらはれ給ひて異国とたゝかひ
ましまされしかの後の明神をれたち光義
の現じて神秘の奇法と人間小法の源乃神通
ハ未審遠討のいかりとなり平家退治の事紙会



殺しあり社壇ゆり震動して白雲たなびき雷
てゝ雨降りて猛くとゞろくこと数刻本尊も
平家をうらびかりけり山城神乃御野ゝ唯識乃三千
頃とうくくわり神世ゝとてつゝとりもち神変
り仏法の文字あり事不思議かりけり三千頃とり
とり妙音入滅の後九百年よりあつりて天親ぶり
乃世ゝあくつゝりあり角乃とゝろすりゝあり
事ハ神通よつゝて童ゝ口伝あるかり

改道とりとる事

左老の物ぐるいよいそくて天下はまりぐ成るとこるゝ成ぐ執權といふ執權とるゝ權をとりまとしもむなりあるゝ色ゝ權とて物成るるゝ百姓成るとけまこゝハ屋もをとるゝ鑑りとなるうゝりていづまとゝはりあゝぐゝあるゝハとのも粧げもどゝ物れとりにとをとりあるひいとのも重高しぐれゝ物の粧ゝ成をあぐゝ權ととりゝをとれぐゝくゝの分ゝ權ととりゝ成るれん里大ゝれゝはゝとりて上ハ一人ゝりゝを百民ゝてゝゝもぐゝれゝくゝりゝ成ゝお惡しゝてゝとゝゝ

とむかぐゝゝ成ゝ秤ゝ粧重ゝりゝくゝゝ成ゝ鑑りとゝゝゝゝ成ゝ執權のゝのゝ上ゝ成ゝおゝむゝりゝ改ゝのゝ
ゝ座ゝうゝゝゝゝ鑑りゝゝゝゝゝれゝ粧
ゝゝゝゝゝゝゝゝれゝてゝゝりゝゝゝゝ成ゝむゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

とうく國をうりて我身第一の利欲にまよはされ
の忘恩とおりくず礼義をくしく万民を仁徳に
ゞ〳〵我機をくめくまるのようをうくよこ
くもろ中よそむいて乱をおこすものを神
明佛陀つきをるれ法人のめくをうらる
ゆ面をうれ小一味をとるをもすくをもれ身をひく
ま三小すりてをのれ〳〵わるをもれるをも
し八機權ノをもぐ〳〵直をもれとうりをもく
ど面目をいさめず利欲をおらいりて殺ふ
とうをふ対ふを天下大事てをびおうりて二
びおさひうをしりをまるりよう業

とうく面をうりて我身第一の利欲にまよはされ
の忘恩とおりくず礼義をくしく万民を仁徳に
ゞ〳〵我機をくめくまるのようをうくよこ
くもろ中よそむいて乱をおこすものを神
明佛陀つきをるれ法人のめくをうらる
ゆ面をうれ小一味をとるをもすくをもれ身をひく
ま三小すりてをのれ〳〵わるをもれるをも
し八機權ノをもぐ〳〵直をもれとうりをもく
ど面目をいさめず利欲をおらいりて殺ふ
とうをふ対ふを天下大事てをびおうりて二
びおさひうをしりをまるりよう業

をれとうりつく面目をうしなひ
義をしてうひろゆ面をよ天ノをもぐをひ地のわ
をひうをうびをををれをくをうを也

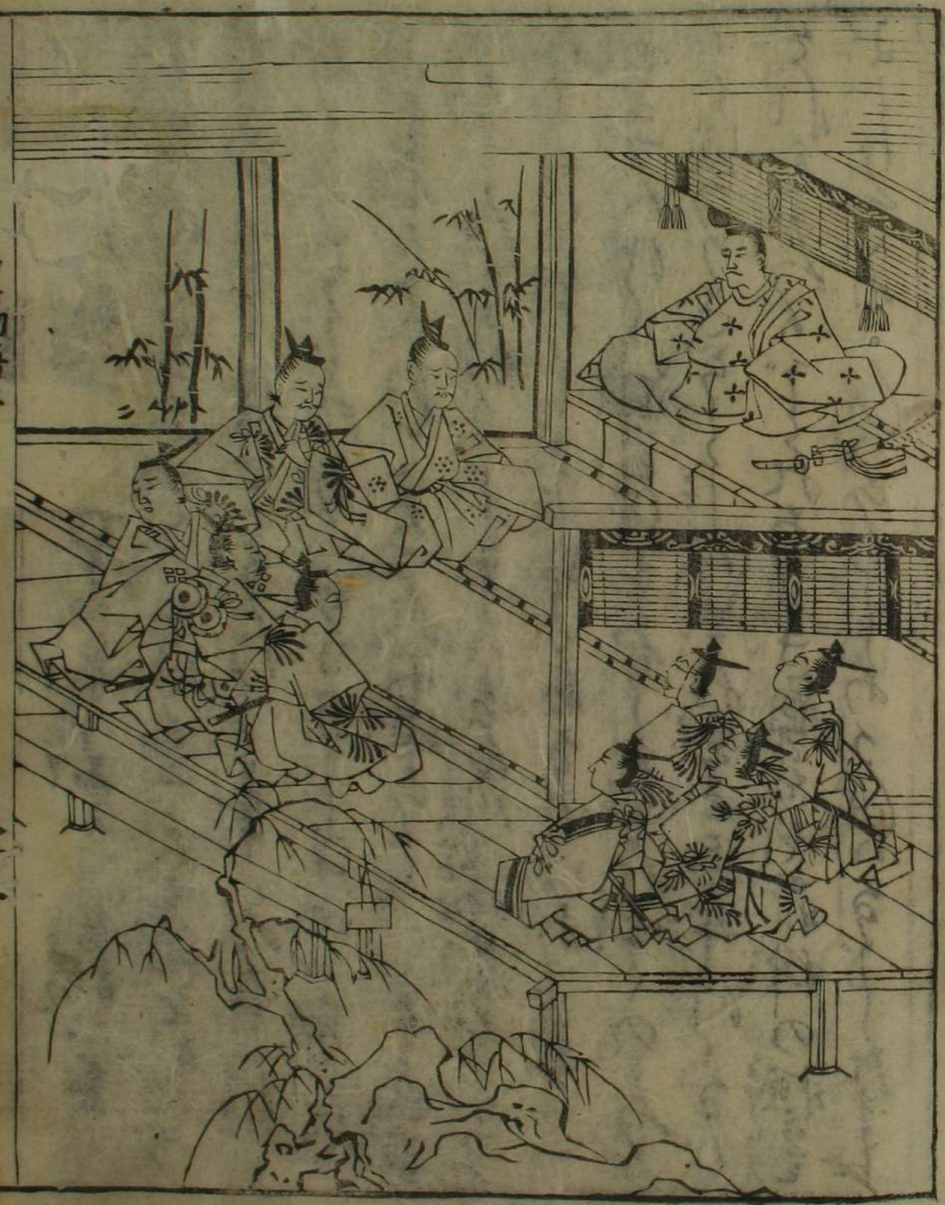
源義経三老一別歌ノ事

右老ノ物がたりをいくを涙ノ彩紙天下ををる
ぶをうをおをめまをうりをををくをうりををこ
をけをくをかつを三老一別歌をををめをふ富
山九郎忠和田ノ義盛小弟ノ時殺をれを三老を
名づく今ノ家老をいふをの ををををを法名百年
後義を離をう機原の系譜を法司の別歌をを

先ず政通殿とかけ合の家より頼朝をふせ二家よ
りて世を治らんの御ふ頼家にくび切く世を
是をつりいく紹ふかれ三老一味して弦ふ乃御
家人数十人連判して梶原の系河が西平成
八千家とて所々り世をたいさのふ今見
義よりぐ源文治乃いふ一色りとみて数十
年れひごの事がりりとり軽家ハ分れゆふ
ひぐーーーどものひとりふ少智遠色も
かれ人て文り宮じ酒とりの糟乃あそび
れ今小月日紙とりの色代弦侍りぐーく
おりひ磯み切ぐりし志乃感謝りさゆ色小ほと

まれち非義とかの色とて一ーーーこ
て系河紙所ーり大膳左今更廣元時政よりふ
河い右将軍軽頼ーい近ーめーーーーー侍也
石橋山ーり紙ーく武軍よりーーで動ふ
ーふをあーどーーり紙軽頼元御河の非義紙
今れ代よりて所ーく当代中射ーてーーり
非ーりれ一紙ーい中げーーりとりく
ゆーーーー

ひるゆ色ゝ彩家ゝ
ゝ色ゝ
ゝ色ゝ
ゝ色



ちりぬ仏さうみうりて義風しかんとて行を
てきろふ和田三郎うんれ一門うちてかりびよりを
次よ彰家ろ乃御よろ曉何宮殿と蒙ぐ異八幡宮
れ別当尚あるーとそ一所りうぐ親乃ろうに
なきぐ宮殿ろ後うら約ぐり時及まこと曉とこ
ろぬそれより小象乃ろにまこ風勝まもく
けそく天下ずびきもこうびくくものづくく時
改ぐ世ーろりそしうれ少家家九代乃弓通念よ
ありて天下紙親擬しーぐ約ぐりる時入道ぐ世ろり
なりて新田義貞乃ろあふうまろれかりび
よきり

天下武家世ながきを付兼久の乱の事
左兵衛の督ゆきいへ卿と一天四海とかさめ
てきりつまでこそとうけつ事はみるこれ
家ゆきいへ卿ひあ小所なりしに中ごろ
さまをかへて天下政道をゆづりて武家
のつかひはかりに事ハ信西川院慮ばかり
みづからおこなはせ給ふ有りしかども
世よ一人ばかり四方に角くのまつ
ごこそつかさどりしかども三年ばかり
そしをもつてれあ
よりてあるひはつかひすぐしたまふ

ことひいろかり支智ふくに改ばかりにたんとを
二ヶ所国に一人づつ置すべき国司になりもろ
中ごろ威勢とをりてそなりて朝敵とこの
賞げ忠節とあるこそして数ともと一人して官
領いくそばかりふ子縁よつてそなりて他人よゆづさ
るやうよりなりそなりれり頼義義家将門義親為
義ら親をばあもこそ所領よりもろ後ぶふ物
うんかとるの人を貫ひとめ百姓ひかぐ角して
武家ととぐふ国部かりくあること角くこと事ある
角ぐとや後ばたたこそ形ずず武家ばかりふ
もくまくこそ天下ひとりのひとりとやと

かりうふ年みを後白川院えに機嫌よ南ゝとて接
祥の初芸能をこうひ安信をみぐりよもとめ
きつく平家に清盛地ひ[illegible]ゝり畢殿ゝ安信に
きりふりの平氏の一類すなろ四日市書ふ
よ誕て三年七ヶ国と更領すをくよ清盛ハ大政
大臣まで進あゝり盛をを天下よりひとゝり氏
これ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ふ清盛ごめふこゝ
きをの[illegible]ゝ[illegible]ゝこめゝをさをひきり志
ゝ氏平家に運こふ[illegible]ふ二門為海乃頃ゝ[illegible]
みをたゝくびゝやこて天下を家に[illegible]ふ
入ゝ氏志ゝれをかゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

かうりきてこう色ゆりしてうけんじゅうの家ともはハ流罪ようの
さすべきやうりなしとて後白河の御所ことに
ゆるされて四位天下の權とゝなる源氏の武家これな
すびきたることゞくゆるかぶ対段ゞ二男たる義朝
を逆平の義時ゞ世ゝ成りきる対ふすりていよ
いよ逆とうゝめこの家とをあぐゝふせゝう
げ後白河院こを成逆賊ありて隠謀乃ゝ行こと
ておくゝゆゝりこれあハ信法圓の住人仁科の
二郎平大盛遠といふをもて二人男ゝ成りきり兄
を十郎ハ十字ゝで流みけいきこえ服をもせさ
せぶり宿所の手ゝみこく熊野へまいりきる対ゝ

二院を熊野御参詣ありをゝみうきてまいりあ
ゆ院乃ゝよどを対れゝくきけゝりをきば
こゝこゝのゝんまゝくて先ゝつゝもんとくゝ
面乃待ゝでなされをゝみどをとゝやうゝ先ゝ
とゝうゝへを盛遠面のおりひとゝゝ対ゝ
く梅ゝ中ゝ小袖ゝ源義朝ゝ手成ゝゝへうけ
ゝ面りてゝ乃ゝを実御所乃ゝとゝてゆゝ
されを対ゝて院中へゝをゝさゝふんゝ対めゝ手ゝう
ゝゝ而成二ゝ所とゝをゝうあげゝう盛遠ゝうく
ゝげゝさゝりをあひゝぐゝ二院ゝりいそゝやゝあ
ゝんゝゝ院宣とゝぐゝさゝゝといゝ面ゝゝを問ゝず

きこえたる橋澤兵衛尉長綱が二子を陸中
よりつれてのぼり鎌倉へまいりぎ
ぬりきる後藤兵衛尉の遺跡をたまはるべきよし
くいさぐ綱りりきる後藤兵衛尉とりはなすべき事
うけたまはりぬ
義時りきろい拙兵衛尉の事上代たち
かたりー後藤兵衛尉追討してたち
給ふ日本國乃惣地頭ふかさうか平家追討六ヶ
年ぬひさご國々の武士どをあつひ給とうこと
れあるひさを後藤兵衛尉のよ郎ふ
とうーあふこ兵勲功よきこびく後藤の郎左衛

とうろうあるこ西でーこれ後藤
神ぐをかたよ今義時りぐたうひーて所のさて
源ーきれしえこーてりきれこ京ー年
きをやいきぐ一流やもうきめ年うるいふを
て實兵衛りうぼーそんのきふりまりぐ後藤
るとうるけぐやしおりぐ
と被蒙ーて西ーの長後藤兵衛尉
廣綱年九郎判官廣義とこぐりてナロケ
西乃武士一千七百人ーそありきれ法寺ぬ
大原りきりけ事こうこ西を作ぐ
あ法皇の御所ふ西ぬ義神とうくみうひ頼

朔よりかのせうをもてそうそうとして人をもて壹岐判官
安部兼[illegible]を命ずるもとめとふつるもとも
きびしく法中の禁法めされ合戦ありしのち
あさましき事おもふこと今をりてられなく
さびしかりし勝して宮崎の軍勝ちいきをつ
をなびくことなかいそぎ御めをとげらるる
屋をさうさうおびただしくもんをされ
若狭の一揆をりてよれ御氣色を強くたまふ
それより結城を信宣とてさうさう出羽義時
つゝ相模守時房とて陣をしてそれ勝十百ちき
して都とさして貴のぐう部うを繼卿御

宗良法師を[illegible]武ちをもありて二百七十四人
ひとをもとけをもたれ打ちけて宮法
尾張よりおむひ[illegible]
[illegible]
軍[illegible]
うつされ[illegible]
我こそ代[illegible]
して[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
つゝ孫九代百六十年ハ小象家の續しもろ紙相
模入道宗瑞が時代よりてうりて西門つゝ

よそむきけるを後醍醐の天皇隠岐の御
ありてびそ軍よ刑ふくして臺帽よ流されあひ
しが足利乃弓武六波羅探題ゑ新田乃義貞ら
まらとかろばして天下こうひそ家よこうり約ら
よ志ゆりるとびくうそ頭ふおくうきして唯頼乃
うそひりうむひうそとびあくびうすく
武家ゑうりぐようくみりをんあるく天下ゑ
うこうして足利の弓武よ世ゑうぐまこうひうそかうり
えうくまうる裏隠ろうとびて事ゑ仏法みる暗
義よかり約ふかうや

加茂次郎源八牧の判官とて
ありけるを
義光の孫ぞとよいてく伊豆守ぞ
廣八幡宮ありしが
人とりもちて伊勢の
ふかりてぐりて
貞盛
人のまねをして
とらてを
ぐりて
やうやうとのみ
なれども
なりてうを
物をとられてけるとそしれり伊豆
必ず一族の義光をうの
ありてうを
者ハかをしたりてうを
ものかりしぐ
求めのこるかぎりを
足軽物をぞおむりん
左衛門尉宗清
鴨の平權の
お踏ゑ八牧の判官

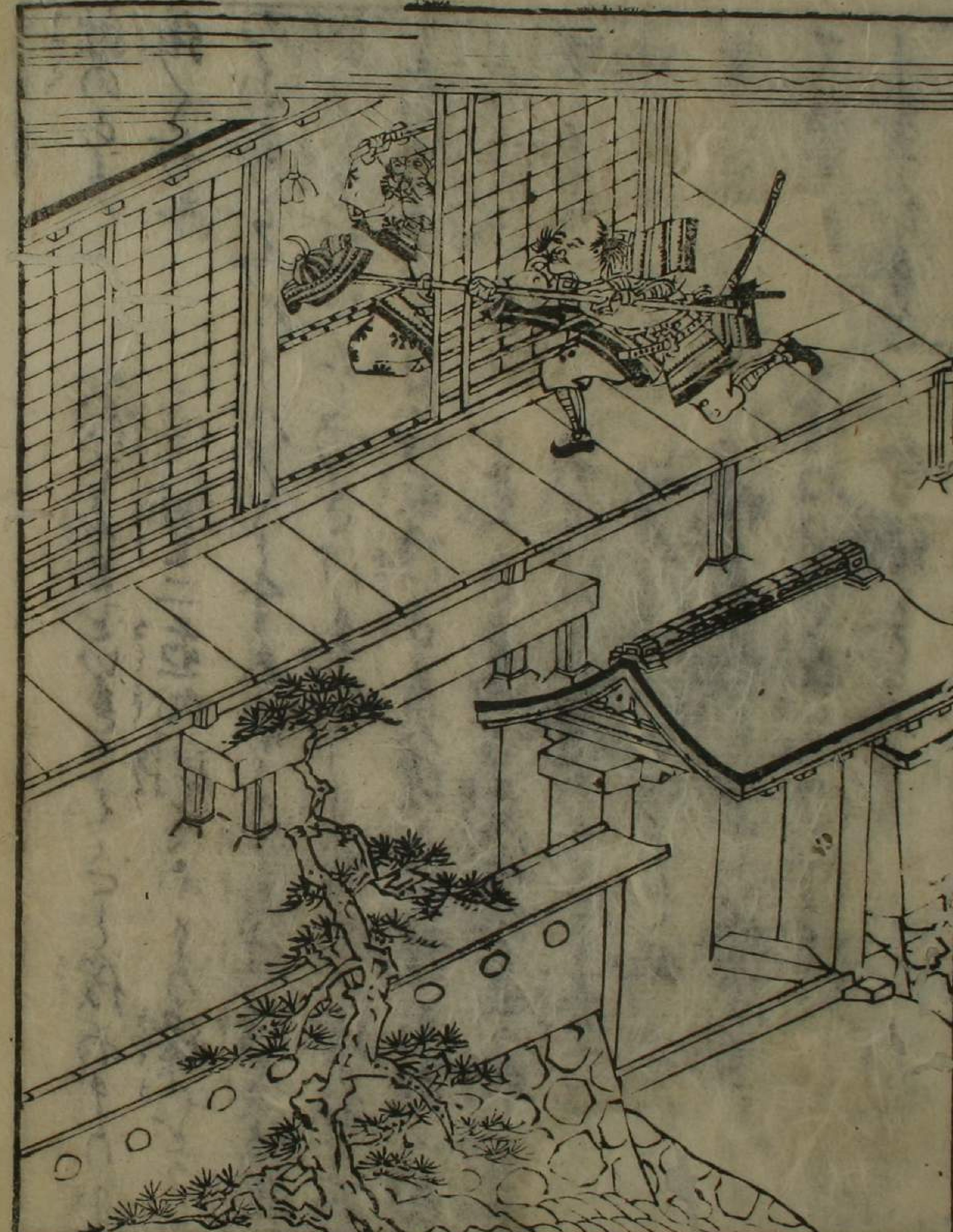
[illegible]とてうつくさてぶまりていまこと[illegible]
のわかつ[illegible]かゑ沒家屋ハ新[illegible]小勇[illegible]
りは事成そうざりしーゲ[illegible]ゆらん世間とさう
ぐーくおろかーたりよむるさんたらのてーけ
ぎたりがつ[illegible]ゆく[illegible]事ゆゑ[illegible]
御おゑ色してまつてどーこ[illegible]て富士ロ
んーおりひしーけうさとぐ[illegible]
らてるかひちとあて[illegible]
うく新朔そ小奥見分を編のよふ小[illegible]つ[illegible]
ゆり作ーゆきりやうしゆ[illegible]万不審[illegible]事ありてあが
ゆるかーの見分をうーゆ[illegible]ありうよ家祢姉ゆり今和

[illegible]小家内ーゆ[illegible]
ぬーけさまよ家屋ゆてあるんうやもらーどーう
せるかもーうりもるうかゑ[illegible]大事成おゆ[illegible]
ーたるよいそ和ーもんたーけ[illegible]
屋ん[illegible]ひーうんーく[illegible]
家屋とーびゆーゆとーけ[illegible]
ーどーそれよふ和ーうーひーふーとーう
ーうーべーられーて新乃[illegible]
ゆふーうゆふ長力とる[illegible]家屋られとるーり
ハ牧ようけゆーゆきしーだ[illegible]
屋家屋ローゆーうそれーけ[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

仁和寺殿御室勢多伽丸が事

古老乃物がたりをいたしく承久三年後白川院御
むかんの時近江乃国住人佐々木山城の守広綱は一
院の御味方よまいりまゐらせ関東の軍にはくしして
官軍うちまけてわるひそうち死しあるひとは
どしもみなそれ／＼にきずつきてうちしにし広綱が
子よ勢多伽丸とて御室乃御所よありけるを
ち世おうしてさくひすくうりて仁和寺よりまれ
だ御室にて御あいすびうす武蔵守泰時御
室へ使をまいらせ広綱が子をいだしまいらせ候べ
しとありしかばかれらを候でごさを給

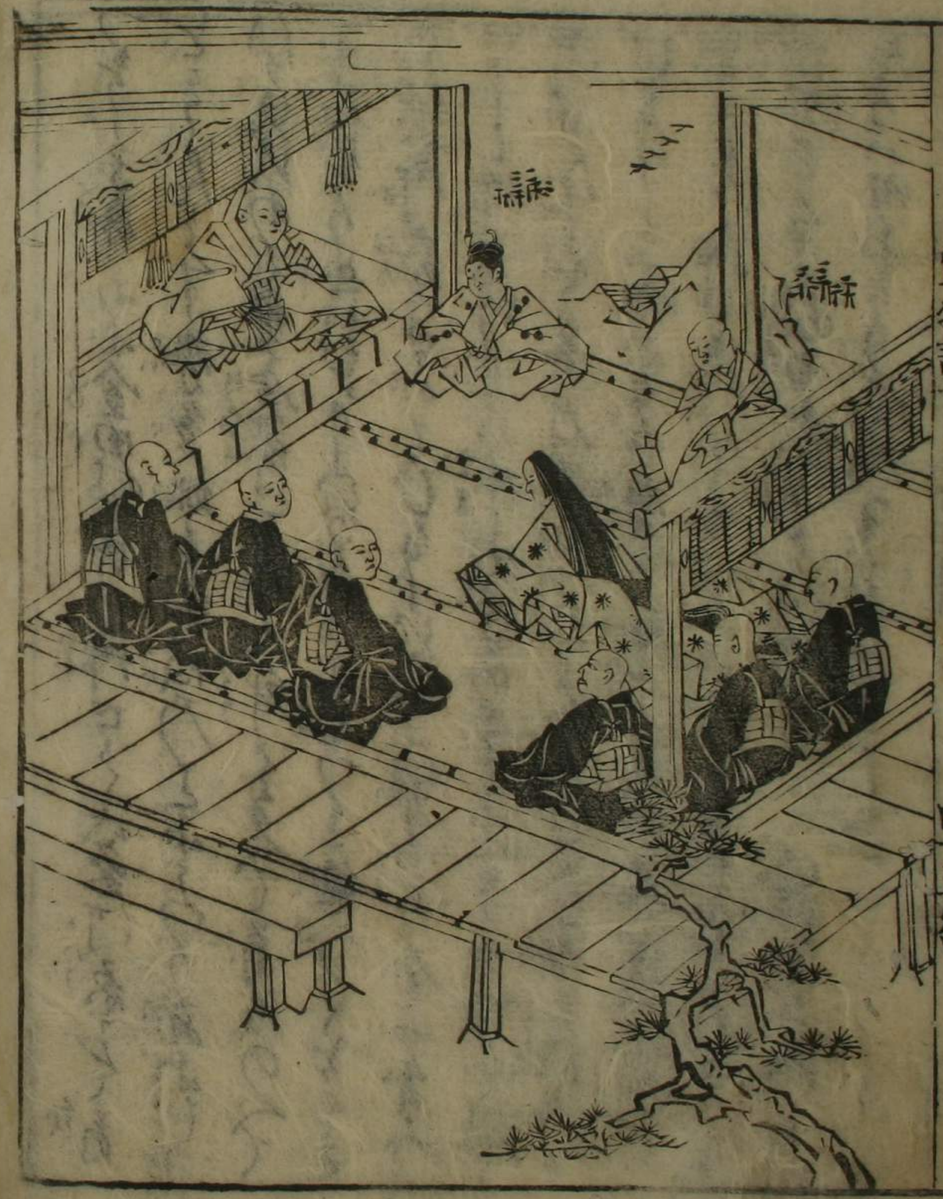


そぐんにてぐ先くあけるこ幾ちどまいりて御和
とやあまりせんどぐんまりるこたふ御まりく
てこりるべしとりもしれど御家よハ我とちてた
ゞ先ととそていふかとかくとく参たとおりい
しふくれるく仏もばちるゆ行りく我と
ちこさ御ふすぐこるくとも臣今られと敵りふ
そいうそにくこさんとくく御神紙ちゞもふこう
ばまゞ暗殺よあふ敵多加丸が母成ゆておか
ちくもんをくりとくく母成しゞく仏そこば
見せいの時りめつこを七八年ひあひぶ
御参りあそひこかりせこきゞそ

ぐらけもばこしかよお便のいこりよおゞ
又ふ飛行ちけもばとれよこそちるゞを通ふ
こ武ちどとれまいこぬちこのまゞいづこを
つもそ思びくれこ仏参多加丸こそう
ふ母ふいゞたへ思びくこもゞこそあもこんうふみ
とけてれまんきそよくゞまんを御ふ御大事
とうをちまんを口ふ品御ふるべこちこよ
ゞゞと家氏運こうきこうとなゞれゞ母成をこんを
こうむ参こよふゞとかとれくくきれゞ母氏
神成ふふかとこわそこうゞゞてお後こをひこま
どとこうくこを汽こくこいふここくくれかこう勢

多賀今年十六さい眉目うるはしくこれ
で御面みる神成志づかりをりまつばとくあり
てかの門をとうまん事と思ひ心がをく涙をと
ゝめをる成けるをみるもいやさりぎわをを
てゝ一ひらに秘蔵さしてあそび
をる物ども成相をれをる四人ならびあるを
とのゝくらひあり給へ念仏をとつひをる
てゝくさあるを御面れ下さをとんつよ間をく
んを面しひをり面てやゝ母のゝかりひらるべ御
面さるゝ〳〵大義井法師兄寛とをんて仰つけさ
きをるやうゝ文が最ゝうさかつをてをるよ〳〵てんのが

ぬをるれどもいとけなきたん仏事をとり仕りあぐき
法師をるして文が後世をとうはせんとおがめ
をもあるをり又便なきこゝ我よあげ給うんや大事
あるを我よりけゝかてみをて又多加よ仰をを
ふをそらゝなをずあり仕りをるべ思とを弟あり山
しかりい鶴川成三遠の川をかりをもとく
切来れをらをりをを成をとををりて為来れの
ちふををうあるをとくゝうををひつゝををふ
をいをを門をを大弟法師下をを思とをひ車よりて
やりおを母ゝ紀をりをちををるを成
ふをりをを後をを世をを車をををを

[illegible]武義寺にてくびとりて西にてふよ
さ四人ばかりをとり御ん[illegible]をさしてとりつれもあり[illegible]
ばくあんじ[illegible]ん[illegible]いとられう毎に[illegible]
びくなさ[illegible]みをるがうられとりて立あがり[illegible]
とおぐ[illegible]七代までを冥加かたうもせて車よのせて
うもうんとすうあの山[illegible]寺廣綱と兄して[illegible]多加よ
八叔父なりをろ作くあの四郎左衛尉信綱まいりて来
廣綱と中あさ事八月[illegible]よりーめと西也[illegible]加
とすけとうとうすべ来ハりくつとうりうんせい
約ん[illegible]信綱ハ忠功あうと西[illegible]多加ハ敵ハ[illegible]
さんばとハちうなどずとてみびとー信綱りあ

つもうふ郎あか金四七郎よ作ひとく六条行ホとて首
とさうんとす[illegible]多加を[illegible]ハ[illegible]
ひを[illegible]あく[illegible]念佛百ん[illegible]て首[illegible]
うもをり母ハむる[illegible]ひよをつさ絶べくとめさ
けど御家ハ[illegible]てむる[illegible]今て[illegible]
ーー作ーりーハ車ふうさの[illegible]
御ん[illegible]御ん[illegible]母を[illegible]
むるくあふり[illegible]多加がとあふ[illegible]
ととて御[illegible]ひ[illegible]
綱つさう[illegible]富[illegible]
をろハ河ふりて[illegible]西さ[illegible]
をろ[illegible]合をろ